

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200628		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム みどりの森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	令和3年1月11日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みどりの森の理念に沿い、家庭的な雰囲気大切にしている。 利用者様の本位の介護を心がけ、利用者様がスタッフに気軽に話しかけられる雰囲気作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山林に佇むホームは、整備された広い敷地を持ち、唐津市内を一望できる展望台も設置されている。コロナ禍以前はこの展望台を活用し、バーベキューや花火見物等のイベントを開催していた。桜が植樹されており、春にはホーム屋内から満開の桜を楽しむことが出来る。敷地内に沸く水は、近隣の人も汲みに訪れるほど美味しいと評判である。近隣店舗とも顔なじみの関係にあり、入居者にとって従業員との会話は、買い物と同時に楽しみのひとつとなっている。また、食事は3食手作りで、入居者と相談しながら献立を作成し、誕生日や季節の行事では、四季折々の食事を提供している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で、社長と職員と一緒に唱和し、目標達成できるように心がけている。	理念は職員に周知されている。勉強会では、理念をもとにした目標を皆で話し合い決定し、その達成に努めている。定期的に理念について振り返る機会もあり、ホームとして理念の実践がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事がある時は、できる限り参加していたが、現在はコロナの影響で参加できていない。	コロナ禍以前は、小学校で開催された音楽のイベントや子ども浮立に参加していた。住宅街から離れた山間部に位置しているため、地域の清掃活動にホームから参加する等し、近隣の商店とは顔の見える関係性を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方に認知症についての話をし理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。出席者の方にホームでの状況報告を行い、適切な意見をいただいている。	会議ではホームの運営状況を報告する他、活発な意見交換が行われている。議事録も整備されており、会議で出された意見をホーム全体で反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員にも出席していただいている。必要に応じては電話や訪問をして、意見・アドバイスをいただいている。	市とは日頃から良好なコミュニケーションが図られており、意見やアドバイスをホームでのケアサービスに取り入れるよう努めている。また、市からの問い合わせにも対応する等、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束・身体拘束は行わない方針で話し合い、3ヶ月に1回行っている身体的拘束適正化検討委員会にて確認しケアに取り組んでいる。	玄関の施錠を含め、身体拘束は行っていない。身体拘束をしないケアについて、外部の研修や法人内部での勉強会で理解を深め、全職員で意識の統一が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加し、職員会議にて全員が共有・話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中々研修に参加できず、学ぶことができない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を説明し、理解・納得されたことを確認して契約を行っている。 また疑問があれば、どんなことでもいつでも尋ねて頂くよう家族様に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族様の訪問時には、状況の説明をしながら、意見を聞くようにしている。また電話などでも対応している。	家族とは良好な関係性が築かれており、日頃から意見や要望を聞くよう努めている他、ホーム独自のアンケートを実施している。家族に対しても、言葉遣いや気遣い等の配慮を欠かさないよう職員に周知されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交換、問題点を話し合っている。個別の意見も聞くようにしている。	管理者と職員の関係性も良好で、管理者は日頃から職員の意見を聞くよう心掛けている。月に1回開催する職員会議では、職員から、業務の見直しをはじめとしたさまざまな意見が出されており、必要に応じて組織的に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて個人的に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修に行ける機会を設けて支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修会などに出席し、情報を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人様・家族様のお話を十分に聞き取り、サービス計画書を作成し、ケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、本人様・家族様のお話を十分に聞き取り、サービス計画書を作成し、ケアに取り組んでいる。本人様・家族様から困っている事や、要望などを聞き取り、必要に応じて多職種との連携にて不安が軽減していくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にSW・CMなどの事前の情報を参考にし、本人様・家族様の意向を聞きながら支援し、必要であれば他のサービスも取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いを尊重し合いながら、生活を共にする思いで本人様の自立を促し、家庭的な暖かいケアを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と連携を取りながら、本人様が一番良い環境で過ごされるように、電話・面会・外出などの支援を協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、ゆっくり面会する事はできないが、事務室にて短時間で面会をしていただいている。また電話などの対応を継続している。	コロナ禍以前は、友人や知人の訪問を受け入れていた。現在は、生まれた地域や馴染みの場所へのドライブを中心とした関係継続の支援を行っている。また、法事へ参加する為の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の交流がうまくいくようにレクなどを行い、職員が間に入ってコミュニケーションがとれるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、いつでも相談できるようにしていることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とゆっくり話す時間を設けている。自分の意思を伝えられない利用者様に関しては、家族様・職員からの情報や、本人様の表情・行動などで把握し、ケアに反映するよう努めている。	本人の言葉だけではなく、表情や仕草からもしっかり思いや意向を把握するよう努めている。話題に応じて、リビングや居室等でゆっくりと寄り添い、話を聞き、得られた情報は職員で共有し日頃のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、本人様・家族様より、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に話を聞き、本人様の思いや、一日の生活状態を理解している。また職員からの情報も共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様より、意見・要望を聞き、主治医・職員の意見を参考にしながら、本人様に合った計画書を作成している。	介護計画は、ケアプランチェック表を活用し、日々の本人状態を把握した上で、本人、家族の意見や要望を取り入れて作成している。6ヶ月に1回の更新を基本としており、モニタリングも適切に行われ、記録も見やすく整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と職員からの情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族様の状況に合わせて、個々の対応が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中での支援を心がけているが、地域資源との協働はまだ検討する必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは、往診を軸として、24時間体制で連携している。本人・家族様が希望されている医療機関への受診は、家族様とホームで支援している。	入居以前のかかりつけ医を継続しながら、夜間は協力医療機関のフォローを受けることが出来る。皮膚科や眼科等についても、必要時に適切な医療を受けることが出来る環境が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の情報や気づき等を看護職に伝えて相談し、個々の利用者様が適切な受診が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報提供書を提供している。入院中は、電話などで定期的に状態を把握できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の対応、終末期に関する指針を説明し、同意を得ている。また早い段階から家族様の意向を聞き、話し合いをして、主治医とも相談しながら取り組んでいる。	入居時に重度化した場合のホームの方針を説明する他、本人の状態に応じて繰り返し説明を行い、本人や家族の意向を確認し、同意を得ながら支援するよう努めている。職員を対象とした、看取りに関する研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成し、緊急時の対応がスムーズに出来るように話し合い、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防訓練、災害時の訓練を行っている。消防立会いや、地区の消防団の立会いを依頼し、1回は訓練している。避難経路や緊急時の連絡網は職員会議などで周知徹底している。また警備会社と契約し、火災や緊急時にはすぐに通報できる体制をとっている。	年2回、敷地内にある他施設と合同で火災避難訓練を実施している。夜間想定訓練も行っており、防災マニュアルも整備されている。警備会社とは、外部からの侵入を想定した防犯訓練を実施している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の勉強会で、個々の人格を尊重する言葉使いや、対応について話し合い、ケアの徹底を促している。	月に1度全職員参加の勉強会を開き、入居者の尊厳やプライバシーの確保について理解を深めるよう努めている。外部での研修にも積極的に参加し、言葉遣いや接し方等、入居者の個別性を把握したケアの実施について周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合わせた説明を行い、お手伝いをしながら自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の生活ペースや体調に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望により、理美容車を利用し、服装も選択してもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつのはきは工夫をして、ご利用者様と一緒に菓子作りをしたり、食材の下ごしらえを手伝ってもらっている。	3食ホームで手作りしている。嗜好調査を行う他、日頃から入居者に食べたいものを尋ね、提供しよう努めている。出来る範囲で下ごしらえや味見を入居者が行い、職員と一緒に調理を楽しむ支援も行われている。誕生会や季節の行事では、ケーキやちらし寿司がふるまわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせた調理法で作り、ムセがある方にはトロミ剤にて対応して提供している。毎回食事・水分の摂取量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様に合った口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて排泄パターンを把握して、声掛けや付添介助にてトイレでの排泄の支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しながら、なるべく便座に座って排泄ができるよう支援している。トイレ誘導時は、個別性に配慮した声掛けを行い、スムーズな排泄につながるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトや果物などを提供し、日中軽体操など運動を行い、便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間をある程度決めているが、本人様の状態や希望により時間の変更はしている。	週3回の入浴を基本とし、入浴日以外も清拭や足浴、陰部洗浄を実施し、清潔に努めている。入浴時は入居者が職員と1対1の空間でゆっくりと過ごせるように配慮し、柚子風呂等、季節を感じる事が出来る工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや体調に合わせた時間を過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の服薬の副作用・用法の用量について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様に合わせた支援を心がけている。職員と一緒に庭の散歩の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の希望に沿いながら、散歩や外出の機会を作っていたが、コロナの影響のため外出・外泊の機会が減っている。	豊かな自然に囲まれた立地を活かし、日常的に敷地内の散歩や近隣へのドライブを行っている。コロナ禍で季節の花見や行事への参加を中止しているが、状況に応じて再開できる支援体制は整っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持されている利用者様もおられる。買い物時は、自分の財布から支払われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも受けたりかけたりできるようにしている。また携帯を所持している方は自由に話しておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて、職員と一緒に飾り物等を作製し、廊下や部屋に飾ることで、季節感のある居心地の良い環境を作っている。	温度や湿度に配慮しながら、1日3回以上、定期的な換気と消毒を実施している。白と木目を基調とした屋内は、掲示物等で季節を感じる工夫がなされており、穏やかさと楽しさを感じながらゆったりと過ごすことができる空間となっている。トイレの場所も明示され、入居者が混乱しないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ・ソファ・本などが置いてあり自由に過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、慣れ親しんだ私物を持ち込んでもらい、本人様が居心地の良い環境を作っている。	居室の入口には名札が取り付けられ、本人や来訪者が迷わないよう工夫されている。持ち込み禁止の物は無く、好みの物で飾られた個性豊かな居室となっている。家具の配置は居心地よく過ごせるよう、本人の状態に合わせ、家族と相談しながら決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には、わかりやすく表示がしてあり、リビングではなるべくテーブルやいすの間隔を開け、スムーズに行動出来るよう配慮している。また危険物は除去している。		